小学校外国語活動だより　vol.１６

H22.7.30　山口県教育庁義務教育課

教育研究開発事業

富海小・中学校は、平成２１年度に文部科学省の「英語教育改善のための調査研究校事業」の指定を受けて、①小学校における英語教育の適切な開始年次や授業時数の在り方、②小学校から中学校への円滑な移行のための方策等、教育課程等の改善に資する実証的資料を得るための事業に取り組んでいます。平成２２年度からは、国の事業仕分けにより、当事業は廃止になったものの教育研究開発学校として、引き続き小学校では１年から６年まで年間３５時間の外国語活動の授業の実施、中学校では週４時間の英語の授業に取り組むとともに、小学校から中学校へ円滑な接続を図る授業の改善に取り組んでいます。

６月２日に４年生の授業を参観しました。その時の授業の様子を紹介します。

他学年の先生や中学校の先生方も授業参観に来られていました。授業の最初に、先生方と英語による簡単な受け答えの活動がありましたが、子どもたちは積極的に何人もの先生方に英語で話しかけていました。

主な活動は、自分が書きたい動物や昆虫等を三角形、丸、楕円、長方形等を使って簡単に表現するために、自分のほしい形や色の図形を英語を使って先生方に伝える活動です。どの先生がどんな図形をもっているかわからないため、何度も尋ねて自分のほしい図形を手に入れていました。間違いを恐れず、積極的に話しかけている様子は、側から見ていて大変微笑ましいものでした。また、子どもたちは手に入れた図形を組み合わせ一生懸命に創意工夫して動物や昆虫を表現していました。どの作品も動物や昆虫の特徴をとらえたすばらしいできばえでした。

この活動のすばらしさは、主活動で使う色や形の言い方について慣れ親しませた後、自分のほしい図形を自分で決めて、その図形を自分の意志で手に入れるために言葉を使って相手に伝えている点です。

活動を仕組む場合、とかくパターン化された表現の繰り返しになりがちだったり、言葉を使う必然性があまり感じられない場合があります。言葉を使う場面や必然性に留意して活動を仕組むことが大切です。

評価についてのお知らせ

文部科学省から評価の観点について示されましたので、お知らせします。

1　評価の観点及び趣旨について

観　点	趣　旨
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
外国語への慣れ親しみ	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
言語や文化に関する気付き	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることをなどに気付いている。

※　３つの観点は、外国語活動の目標を構成している、３つの柱「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。」「外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。」「外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。」に対応するものである。

※　設置者において学習指導要領の目標及び具体的な活動等に沿って評価の観点を設定する。また、各学校において観点を追加して記入できる。

※　評価の観点を記入した上で、それらの観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

※　評価の観点については、中・高等学校における外国語科との連続性に配慮して設定する必要がある。

2　各観点の留意事項について

(1)　コミュニケーションへの関心・意欲・態度

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けているかどうかを評価するものであり、子どもが実際にコミュニケーションを行おうとしている状況を観察するなどして評価する必要があります。

(2)　外国語への慣れ親しみ

様々な活動を通して、外国語の音声やリズムなどに慣れ親しみ、設定された表現等を使用して、自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを理解しているかどうかを評価するものです。子どもの行動や発言の観察、また、活動の中で子どもが作成したものや、子どもが記したワークシート等からも評価することになります。

(3)　言語や文化に関する気付き

多様な文化の存在を知り、我が国の文化と異文化とを比較することで、様々な見方や考え方があることを気付かせることが大切です。そのため、ここでは、文構造や文法事項、扱う言語の背景にある文化に対する理解ではなく、幅広い言語に関する能力を指し、言葉の表し方の違いや言葉の多様性、言葉の面白さや豊かさ等への気付きを、子どもの行動観察や自己評価等から評価するものです。